



ザクヘイよ、速やかに下れ。
蓋、我、今日、爾の家に寓るべし。
彼、急ぎ下り、
喜びてイイススを接けたり。

(ルカによる福音書第19章5、6節)



仙台正教会
教会だより

2024年
2月号

仙台ハリストス正教会

〒980-0021 仙台市青葉区中央三丁目四二〇

TEL(〇二二)二二五二七四四

FAX(〇二二)二二四一三〇八〇

http://www.sendai-orthodox.jp

orthodox@hyper.ocn.ne.jp

背の低かったザクヘイは、群衆の背中で遮られて見えなかったハリストスを見たいと強く願ひ、いちじく桑の木に登った。ハリストスは、木の上にいるザクヘイに「速やかに下れ」と命じ、「我、今日、爾の家に寓るべし」と言つて、ザクヘイの家に宿泊することを決めた。イイススを喜んで迎え入れたザクヘイは、取税人でお金持ちだったが、今までの自分の生き方を痛悔し、ハリストスの言葉信じる生き方に悔い改めた。

別の箇所で、ハリストスは「金持ちが天国に入るのは難しい」「らくだが針の穴を通るほうがやさしい」と言われた。しかし、お金持ちであったザクヘイは、らくだを針の穴に通したのである。「それは人間にはできないが神には何でもできる」。つまり、ザクヘイは、神の力をいただいで痛悔し、神の力によって「天

国」に入ったのである。

私たちが学ぶべきは、このザクヘイの姿である。ザクヘイは、ハリストスを見たいと思った。私たちも、まずハリストスを見たい(知りたい)と思うことが肝心である。私たちに足りないのは、このハリストスを知りたい、神様と出会いたい、真実を受け留めたいという「欲」である。

最初ハリストスを見られなかったザクヘイは、背が低い自分を認識し、どうかしようと考え、木に登った。私たちも、簡単には信仰をもてず、神のみ旨にかなうことを行えず、神と自分を遮断してしまっている自分を認識することがまず必要である。では、私たちが登るべき木とは何か? それは教会である。教会の聖体礼儀である。そして復活祭の前に用意されている「大齋」である。

ハリストスは、ザクヘイに対して最後に「今日、救いがこの家に来た」と言われた。この一言を聞くために、これからも教会という木に登り続けよう。(D)

大聖水式

1月21日(日)、暦を二日ずらして、主の洗礼祭(神現祭)が仙台正教会において行われた。洗礼祭の聖体礼儀に続けて堂内で大聖水式が執行された。



婦人会より

新年会

1月14日(日)、婦人会有志で新年会を行いました。場所は「大原」という日本料理屋で、10名が集まり、歓談に花を咲かせました。

2月11日(日)に、婦人会定例会を行なう予定です。ご参加をお待ちしております。



聖歌隊新年会



1月7日(日)、聖歌隊として、ささやかに新年会・降誕祭の慰労会を行いました。ちよつぷり豪華目なお弁当とお菓子などをいただき、コーヒー・紅茶を飲みつつ、くつろ

いだ雰囲気です。新年会には、たま函館から来仙されていた見玉マトシカが途中から会に参加されました。久しぶりにお会いできたマトシカに、降誕祭のティ・パーティの時にも歌った『逢えてよかったね』を合唱してお聴かせすることができました。また増子姉が作ってこられたホームメイドのマリトツツオ風?ケーキをいただきました。新年に華を添えるような素敵なデザートでした。

福島地区家庭集会



1月7日(日)、代式祈祷後に、方舟会によって境内のみの木に飾ったイルミネーションの取り外し奉仕が行われた。婦人会も聖堂や会館のツリーの片付けを行った。



年に二回のペースで行われている福島地区の家庭集会が1月18日(木)に開かれた。参集したのは二名のみであったが、降誕祭の廻家祈祷を共に祈った。祈祷後は、神父より降誕祭に因んだ三択クイズ「サンタクロース(三択苦勞す)」が出され、楽しく降誕祭の意味を学んだ。

白河正教会だより

主の降誕祭

1月6日(出)、7日(日)にかけて、水口神父が白河正教会を巡回した。丁度、旧暦のクリスマスにあたり、降誕祭徹夜祷と聖体礼儀を行った。

聖体礼儀および昼食の後には恒例の水口神父によるクイズ大会が開かれた。ベツレヘムの場所を地図上で問われたり、博士たちを導いた星を意味する「星架」とはどれかなど、難問が出されたが、多くの方が正解に手を挙げていた。



イオアン大寺兄による食後のデザートをいただきながら、AHA体験クイズも行った。画像の一部が少しずつ変化していくを見抜くもので、見つけた瞬間のひらめきが脳を活性化させるといふ。

中新田正教会だより

新年感謝祈禱

仙台管轄区の司祭が一人となったため、中新田正教会の新年祈禱に水口神父は赴くことができ



ず、セルギイ渡邊執事長が中心となつて新年感謝祈禱を信徒のみで行った。それでも多くの参拝者を得ることができ、祈禱後に集合写真を撮った。

代式祈禱と奉仕

1月14日(日)に代式祈禱が行われ、祈禱後の奉仕として、ローソク・リサイクルの作業を行った。使用して残ったローソクを細かく砕

主の洗礼祭

水口神父のスケジュールの関係上、中新田正教会では、1月26日(金)、27日(土)に主の洗礼祭が祝われた。



き、芯は取り分けておく。金具に芯を取り付けランパードグラスの真ん中に置き、細かくなった蠟を入れて再利用している。



洗礼祭の聖体礼儀に続いて大聖水式を行い、その後、月例パニヒダも行った。パニヒダではアナスタシア渡邊とめの姉の一年祭も記憶された。

ニコライ堂と北原白秋

ニコライ 本多弘明

ニコライ堂 この夜 揺りかへり鳴る鐘の 大きあり小さきあり小さきあり大きあり (歌集『黒檜』より)

右に掲げた短歌は、北原白秋(1885~1942)が晩年に詠んだ歌の一首です。その当時、白秋は 芸術家としても実りの時を迎えていました。同時並行で舞い込む数多くの仕事(選歌・雑筆・講演、大学での講義)に自分の時間を犠牲にしつつも、その一方で、幾晩も徹夜を重ねながら創作(詩・短歌・俳句・童謡など)に辛苦する日々を送っていたのでした。そしてその多忙な生活は、白秋の健康を少しずつ蝕んでいったのでした。

特に白秋の目は眼底出血を起こし、視力が著しく低下してしまっていました。真の原因が糖尿病にあることから、糖尿病の権威で御茶ノ水の杏雲堂病院の副院長である佐佐廉平医学博士を紹介され、その診断を受けると、一ヶ月以上は入院し絶対安静が必要だと宣告されました。

結局、白秋は視力を取り戻すことのできぬまま、翌昭和13年1月7日に退院するまでの2カ月近くをこの病院で過ごしました。白秋は言います。



「その三階の八号室といふ南向の、やや自にくすんだ黄をまじえた一部を、いろいろのカーテンで装飾し、鳩時計や朱の古びた童女像の額を掛けたり、ラヂオを引いたり、見舞いの花々や水菓子の籠や、三段に変わるスタンドや、文鳥の籠やにとりかこまれて、この上なく幸福である。ニコライ堂の鐘も朝夕にきこえる。」(『多磨』昭和12年12月号)

杏雲堂病院は、今も当時とほぼ同じ場所にあります。一五〇m余り東には、ニコライ堂が響えたと見えていました。白秋は、病床にあっても全く筆を置くことなく創作を続けました。冒頭に掲げた短歌は「降誕祭前夜に詠んだ」という一首です。降誕祭前夜にはもう一首が詠まれています。

ニコライ堂 円頂閣(ドーム)青さび 雲 低し この重圧は夜にか持ち越す

かつて「色彩の詩人」、「言葉の魔術師」と称された白秋は、視力の衰えた自らの今を「薄明の世界」にあると表現しました。そんな薄明の詩人白秋にとって、朝な夕なに近く聴こえるニコライ堂の鐘の音は、その気持ちを慰める癒しの響きだったと思われまます。下2句の「大きあり小さきあり小さきあり大きあり」という、字余りを用いて揺りかえる鐘の音を街佛とさせる描写は、遠く近く聞こえるような正教会特有の鐘の響きが、心までも揺りかえらせるような効果を生んでいます。まさに白秋ならではの表現といえるのではないのでしょうか。

この頃、ニコライ堂の降誕祭は新暦に基づき12月25日に行われるようになっていました。その前夜に当たる24日の晩禱で響く鐘の音を聴きながら、クリスマス・イヴの夜も病室で過ごさざるを得ない病身の白秋の心中には、まるで揺りかえるように、様々な想いが去来してしに違ひありません。

正教会における鐘

鐘は、正教会の聖器物の中で非常に重要な要素の一つである。「鐘の成聖の祈祷」では、次のように唱えられる。「昼と夜とにかかわらず、この鐘の音を聞く凡その人々が起きて爾の聖なる名を讃美するがため、これに恩寵の降されんことを、主に祈らん。」

鐘は次の三つの用途で用いられる。

- 1、聖なる奉神礼に信徒を招集するため
- 2、教会の勝利の喜びを表すため
- 3、教会の内にはいない人々に、奉神礼の中で特に重要な瞬間を知らせるため

…鐘は、キリスト教の歴史の中で、そんなに早くからは用いられていなかった。旧約時代では、エルサレムの神殿において、人々は鐘ではなくラツパによって礼拝に呼び集められていた。一世紀頃の異教徒に迫害されていた教会では、公に信徒を集める機会をつくることはできなかった。その頃、輔祭の一人や、使者、時には主教自身によって、人々は密かに招集されていた。つまり、奉神礼の

終わりに、次の日時と場所を告げていたのである。

四世紀頃、迫害時代が終わると、信徒を招集するためにいろいろなものが使用されるようになった。特別なものとしては、木板や鉄板をハンマーで叩いて信徒を集めていたことが六世紀に見られる。よく知られているように、最初の鐘は



西ヨーロッパで生まれた。鐘の発明は、四世紀末か五世紀初頭(…とする伝承がある。)…東方のギリシア教会では、九世紀後半に鐘が使われるようになった。

…大祭の日には、鐘の音は天国の祝福を思い起こさせる。偉大な聖人の日には、天国にいる人々の永遠の安息を思い起こさせる。受難週には、ハリストスによる救いを思い起こさせる。光明週には、死に対する生命の勝利と、ハリストスの国における永遠で終わりのない喜びを宣言する。

鐘が過ぎゆく時を告げ、時間の流れを

思い起こさせると同時に、「これより復また、時、無からん」(黙示録 10:6)と

いう永遠をも思い起こさせる時、「舌ぜつを持つ」鐘は我々に語りかける口となる。

昼夜を問わず、ハリストスの名の光栄を神の教会の高みから告げる鐘の音は、旧約聖書の預言者イザヤを通して語られた主・神の言葉を思い起こさせる。「エルサレムよ、わたしはあなたの城壁の上に見張人をおいて、昼も夜もたえず、もだすことのないようにしよう」(イザヤ 62:6)。いみじくも、異教徒が鐘の音を聞くと、しばしば「あれはキリスト教徒の神の声だ」と言ったそうである。

教会の鐘の音は1つでも高貴で荘厳なものだが、複数の鐘がハーモニーを醸し出せば、より壮大な響きを奏でることができる。感動的な鐘の音は、私たちの内なる感情に働きかけ、属神的な眠りから魂を目覚めさせる…。

(The Law Of God, Archpriest Seraphim Slobodskoyより抄訳 長司祭ダヴィド水口優明)

2月聖名日 モレーベンのご案内

2月18日(日)聖体礼儀後

2月の聖名日モレーベンに該当する方々の一覧です。



聖クセニヤ



聖アガフィヤ

聖名日	聖名	氏名(敬称略)
2/1	マカリイ (エジプトの克肖者)	瀬戸正岐、土田貫一郎
2/3	アグニヤ (ロマの聖致命女)	高橋由佳
2/6	クセニヤ (ロマの克肖女)	クランソーヴァ・オクサーナ
2/7	グレゴリイ (コンスタンチノープルの大主教神学者)	大場 宏、中川文彦
2/10	エフレム (シリアの克肖者)	大場 昇、千葉重行、平塚 清
2/16	ニコライ (日本の垂使徒)	大槻欣史、寺嶋秀之
2/16	アンナ (聖預言女)	岡崎たい子、葛西弘子、熊谷道子、木幡貞子、今野多恵子、西條恵子、櫻井恵美子、笹川久美、板橋千佳子、但木國子、八賀みち、伊藤光子、鈴木えりか、熊谷天津子、金子晏生
2/16	シメオン (抱神者)	鈴木和夫、高橋 真
2/18	アガフィヤ (聖致命女)	千葉和子
2/23	パウラ (パレスチナの聖致命女)	千葉万亀
2/27	キリール (スラブの教師博士克肖)	板橋敏雅、佐々木篤志、渡辺吉雄

消 息

きれいな写真付きで解説。東京(ニコライ堂)、京都、豊橋、白河、北鹿、函館の正教会の聖堂が紹介されている。



著：八木谷 涼子
写真：鈴木 元彦
出版社：エクスナレッジ

日本の美しい教会

図書案内

お求めは各自、書店
やウェブサイトです



・永眠
一月二十四日
ナタリヤ 板倉京子 姉 (97歳)
永遠の記憶

一月二十六日
アグニヤ佐藤瑠都子 姉 (89歳)
永遠の記憶

執事会報告

令和6年1月9日(火)

14時〜15時20分 3階会議室

一、報告事項

・京都正教会のソロモン川島師が輔祭に叙聖された。12/10

・セラフイム府主教座下へタンス送付。

・トイレ水漏れ修繕完了。

・代表役員が水口神父に変更登記済。

七十七銀行、三井住友信託銀行、ゆう

ちょ銀行の代表役員変更届を行った。

・新年の深夜の祈祷には4人ほど、午前

11時の祈祷には20人ほどの参拝。

・会計報告

マルファ遊佐ひでよ姉の遺言により遺族から百万円の寄付があった。これを修復積立金として三井住友信託の定期預金とした。12/27

二、協議事項

(1) 責任役員の内

水口神父が責任役員から代表役員に

なったので、イリヤ木村良治執事を代務者として指名した。正式に責任役員になるのは慣習として信徒総会を経てからとなる。

(2) ガス・ストーブ一台が不良

四階のストーブのスイッチが不良。三階の使用していかないものを四階に上げた。不良品は粗大ゴミとして処分する。

新しいものは今のところ必要ないので、すぐには購入しない。

(3) 堂祭の件

4月7日の「生神女福音祭(仙台の堂祭)」が丁度日曜日に当たる。第一日曜日は白河巡回の予定だが、「堂祭」を信徒に周知するチャンスでもあり、めったにない機会なので、この日は、仙台で聖体礼儀をして、祈祷後に昼食会(大斎中であることを考慮する)を開き堂祭の話聞く予定とする。また、記念品として紅白饅頭の配布を検討する。

(4) 一五〇周年記念

近いうちに第三回記念準備委員会を開きたい。



献金報告 (5.12.26〜6.1.28)

○聖堂内献金 十二万九百十六円

○感謝献金

平塚喜美子

宮崎正美

○聖名祭感謝献金

増子陽子、水口優明

山田三穂子

○降誕祭献金

但木國子、太田さつ子、秋保

明、佐藤由枝

佐藤周治、高野貴久子、葛西

弘子

澤邊洋子

○埋葬献金

横山家(横山毅)

○パニヒタ献金

横山かつみ(四〇日祭)

笹川皓、高橋ゆり、八賀みち、

本多弘明

渡辺幸子

太田悦子、村井恵子、山本理

恵子、山本実、岡崎文子、永

沢正輝

平塚清、千葉弘樹、渋谷秀行、

山田喜美雄、高橋秋子、岡崎澄

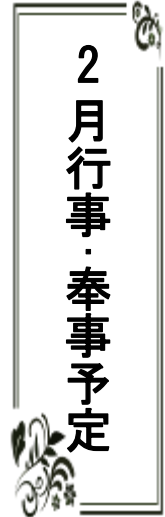
之、大立目謙直、西海枝康子

伊勢洋子

山中由美、古田直子、岡崎雄俊

※敬称略(順不同)

2月行事・奉事予定



3日(土) 徹夜祷はお休み 第2調
 4日(日) 第35主日代式祈禱(10時30分)
 書札 コロサイ 3:12・16
 福音 ルカ 18:18・27
 【第30主日分】

3日4日 水口神父白河出張
 3日(土) 18時 主日徹夜祷
 4日(日) 10時 主日聖体礼儀・大聖水式

6日(火) 定例執事会(14時)

10日(土) 主日徹夜祷 第3調 (17時)
 11日(日) 第36主日聖体礼儀 (10時)
 書札 テイモフエイ前 1:15・17
 福音 ルカ 18:35・43
 【第31主日分】

■月例パニヒダ／婦人会・方舟会

11日(日) 中新田正教会・代式祈禱(10時)
 14日(水) 祭日徹夜祷 (17時)
 15日(木) 主の迎接祭聖体礼儀(9時)
 書札 エウレイ 7:7・17

15日(木) 祭日徹夜祷 (17時)
 16日(金) 亜使徒日本の大主教
 聖ニコライ祭聖体礼儀(9時)
 書札 エウレイ 13:17・21
 福音 マトフェイ 5:13・20

17日(土) 主日徹夜祷 第4調 (17時)
 18日(日) ザクヘイの主日聖体礼儀(10時)
 書札 テイモフエイ前 4:9・15
 福音 ルカ 19:1・10

※ 聖名日モレーベン

22日(木) 東北ブロック宣教会議(於一関)

23日24日 水口神父中新田出張
 23日(金) 16時 勉強会／17時(冬時間) 晩祷
 24日(土) 10時 聖体礼儀
 ／月例パニヒダ

24日(土) 主日徹夜祷 第5調 (17時)
 25日(日) 税吏とファリセイの主日
 聖体礼儀 (10時)
 書札 テイモフエイ後 3:10・15
 福音 ルカ 18:10・14

◇ ミニ講話／聖堂清掃奉仕日

2月の集会は以下のように予定します。

【婦人会・方舟会】→11(日)

【聖歌隊練習日】→4(日)、18(日)

【聖堂清掃奉仕】→25(日)

【ミニ講話】→25(日)

【教会学校】→ 随時

【伝道会18時～】7(水)、28(水)

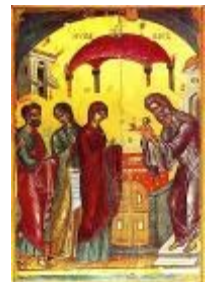
※ 14(火)と21(火)はお休みします



主の迎接祭

2月15日(木)

誕生して40日目に神殿に捧げられたイソスを記憶。抱神者シメオンとの邂逅が注目される。



亜使徒聖ニコライ祭

2月16日(金)

日本に正教を伝えた亜使徒聖ニコライを尊み、転達を願う。聖人の示した道を見つめ直そう。

